

1972年11月5日、月曜日—バッキンガム宮殿に突然、凄まじい大爆発が起った!

オクトパズ

THE 5th OF
NOVEMBER



東宝東和提供

カラー作品/アメリカ映画

AIP創立20周年記念作品

ロッド・スタイガー

リー・レミック

リチャード・ジョンソン

トレバー・ハワード

製作サミュエル・Z・アーコフ

監督ドン・シャープ

脚本ジョン・ゲイ/リチャード・ジョンソン

音楽ジョン・スコット

10月25日(土)ロードショー

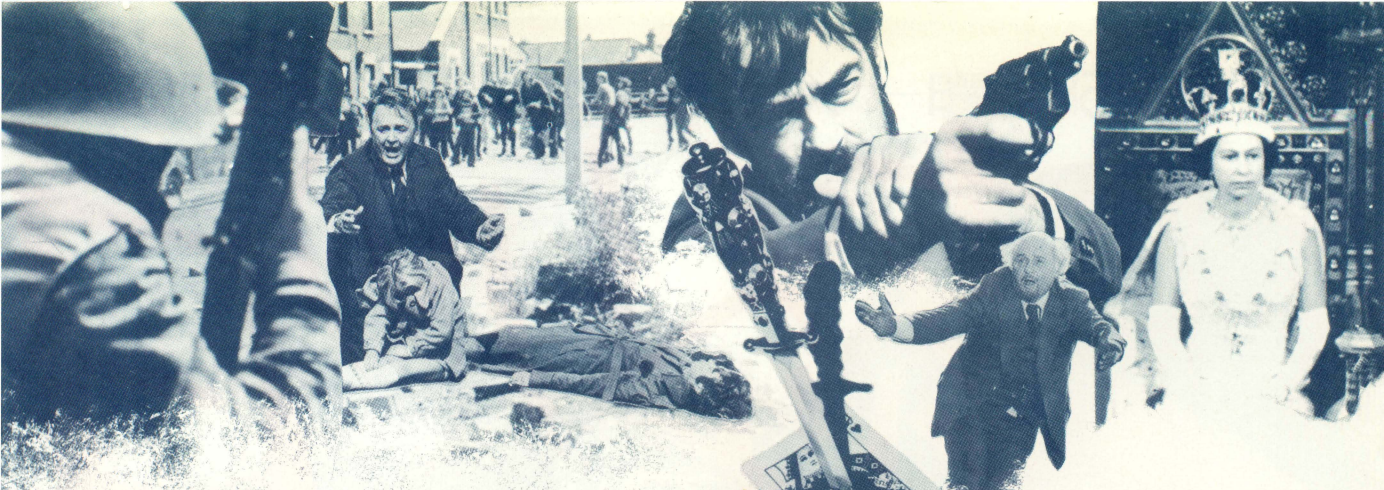
■お得な特別観賞券800円<一般1000円・学生900円の処>絶賛発売中!

日比谷映画

(591) 5353

新宿プラザ劇場

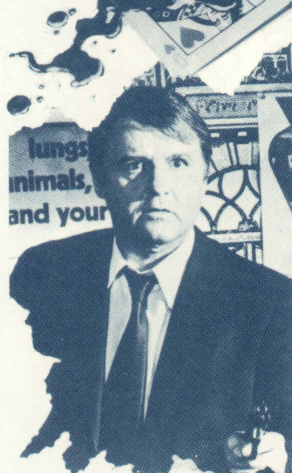
(200) 9141



■世界的衝撃の波紋ひろげる問題作!

英国エリザベス女王暗殺事件という思いきったテーマをショッキングに叩きつけて登場したこの映画は、当然のことながら今、世界各国で話題のマト。完成と同時にアメリカ本国では、ほとんどのマスコミがこれを取り上げ、上映は否論めぐるってひとつの社会的事件にまで発展、作品がイギリスに渡るや、全ジャーナリズムが湧き立って報道合戦をくりひろげ、遂には上映中止の断が下された。

伝統的国家イギリスの美しき象徴、しかも世界中の人々から敬愛を受けているエリザベ



■背景を彩る国際的政治紛争!

世界を動かしている人物を狙う暗殺事件の犯人が、単なる狂人でない限り、ほとんどそこには複雑怪奇な政治的あるいは民族的な紛争が絡みついている。このエリザベス女王暗殺計画の犯人は、世界注視のアイルランド紛争で知られるIRA（北アイルランドのカトリック系非法軍事組織）党員の一人。IRAと言えはアイルランドの独立を目ざして反英斗争を展開中の組織だが、そのIRAの党員が、なぜエリザベス女王の暗殺を企てたのか?、それは北アイルランドの首都ベルファストで、反英デモを鎮圧する英国兵の無差別銃撃のために、最愛の妻子を一瞬のうちに殺されたからだ。この悲惨な事件は、温厚なIRA党員を、いっきに兇暴な暗殺者に変貌させた。彼は英国への激烈な憎悪から、11月5日の国会開院式の日、エリザベス女王以下イギリスの政府要人のすべてを議事堂まろとも爆破殺害しようとして、その戦慄すべき計画に着手する。

ス女王を暗殺するという恐るべき映画への興味とリアクションは、予想をはるかに超えた衝撃性をはらんで、巨大な世論を動かしながら、各国で異常なヒットを放っている。

■ドゴール、ケネディ、そして遂に...!

暗殺映画での近年の傑作と言えは、ドゴール大統領暗殺計画を扱った「ジャック・ケネディ」の二作があるが、この「怒りの日」はなんと云っても、本物のエリザベス女王が実際に画面に登場する強烈なサスペンス巨編である。一連の世界要人暗殺ものの文字通りの真打

■暗殺者、ロンドン警視庁、IRAの息づまる三ツ巴の闘い!

十一月五日の国会開院式に向けて、着々と女王暗殺の計画を進めさせるIRA党員ヘネシー。この大胆な動きを事前にキャッチして大規模な警戒捜査網を張りめぐらせるロンドン警視庁（スコットランド・ヤード）。そして国際世論の反撥を避けるために、党員ヘネシーの過激行動を阻止しようとするIRAの幹部たち。映画はこの三ツ巴の火花散る闘いを中心に据えながら、さまざま事件展開を見せて、強烈なサスペンスを打ち出す。終始、クールなハラ／ドキ／を観客に与えつつ、いっきに爆破クライマックスへと突き進む迫力は、映画のダイゴ味を充分にたんのうさせる近來にない見ものだ。

■暗殺クライマックス、72年11月5日!

英国国会開院式の当日、バッキンガム宮殿から国会議事堂へ、そしてさらに開院式の演説に至るエリザベス女王の出演のシーンはすべて実写のニュース・フィルム。映画はこのニュース・フィルムを巧みにドラマ部分のシーンに取り入れ、女王暗殺クライマックスに息づまるような迫力を盛りあげて、凄まじいばかりの臨場感を打ちだしている。それだけにこの作品を観た英王室の拒絶反応は大変なもの、早速、製作会社AIPに鋭い抗議を叩きつけ、一部分カットで合議となったが、日本公開は特例でむろんノー・カット版の上映となる。

ちとして、エリザベス女王暗殺事件の巨大なドラマは、このナマ／しい現実感をひっ下げてやってきたわけである。さて、このような恐るべき暗殺計画を企てるのは如何なる人間か、そしてその動機は? そのプロセスは?.....

THE 5th OF NOVEMBER

怒りの日

カラー作品/アメリカ映画
AIP創立20周年記念作品

TOWA

東宝東和提供

■すべて現地ロケで圧倒的な緊迫感!

題材が題材だけに本モノの迫力、ナマの現実感が要求されるだけに、撮影はほとんどがロケーション。映画の背景となる北アイルランドの首都ベルファストからロンドン市街、さらにはバッキンガム宮殿、英国国会議事堂の内外へ、すべて徹底的な現地ロケを敢行し、重厚な実録サスペンスの緊迫感を追求した。撮影は名手アーネスト・スチュワート。実際にこれと同じような事件が起っているだけに、実に不穏な空気をはらみながらのロケーション撮影だったと云う。

■名優ぞろいの緊密な大ドラマ!

重厚にして衝撃的な暗殺もののサスペンスだけに、当初から配役陣は大スターよりも底光りするような演技達者を連ねた異色キャストイング。まず主役の暗殺者ヘネシーには、名優ロッド・スタイガー。言うまでもなくアカデミー主演賞スターのひとりだが、古くは「波止場」、近くは「質屋」「夜の大捜査線」等々、その出演作は名品ぞろい、名実ともに世界的な演技派と言えよう。ほかにヘネシーをかくまう初恋の女性ケートにベテラン女優のリー・レミック、スコットランド・ヤードの長官にイギリスが誇る重鎮トレバー・ハワード、そしてその部下ホリスには、新進気鋭の知性派スターであるリチャード・ジョンソンが各々扮し、水も洩らさぬ緊密な噛み合いを見せて、興行きの深いドラマ感を盛りあげて